

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 ウエルネス

今年度は、4月に予定されていた介護報酬改定が6月に延期され、全体として1.5%の増加（介護報酬0.6%、介護職員等処遇改善加算0.9%増額）をみた。介護事業者の売り上げは、国が定めるこの介護報酬にすべてをゆだねているという状況の中で、政府が推奨する5%の賃金改正の原資を、これからの3年間にこの枠組みの中でねん出するには経営努力を超えた領域と言える。

円安、電気料金等の諸物価高騰の推移は、短期予想は現状維持もしくはより増幅が予想され、対応としては各事業所の稼働率UP、ロスを減少させることを重点としたい。

1、地域への貢献

今年度の地域活動は、コロナ感染の状況を見ながら、地域コミュニティや町内会等との連携を図りながら、地域密着の活動をより推進している。

「うんどう教室」	毎月第4水曜日開催実施
「脳健康教室」	7月～12月 毎週火曜日実施
「オレンジカフェ」	第1月曜日毎月実施（本所、柳橋で各月開催。他出張で4回実施）
「葛巻地区認知症フェア」	10月20日に実施した。
「通所運営推進会議」	規定に則り2回開催。
「特養運営推進会議」	規定に則り2回開催。

2、健全経営と職員の処遇改善

今まで3種類あった処遇改善加算は今年度から一本化された。ただ、その移行時に複雑な事務作業があり、全国の事務作業が混乱した。ベースアップや賃金改定の原資となる加算は、これからの3年間に0.9%の増額しかなく、ますます他業界との格差が拡大する。また法人本体の経営に関する報酬改定は0.6%の増加しかなく、これからの3年間にその枠内で構成することになる。

経費節減策も図っているが限界に近く利用者の生活に影響は出せないジレンマがある。コロナ感染休業補償保険は、解約した。

① 特養：

- 今年度の看取りは4名だった。入院する件数は減ってきている。稼働率100%の月はなかった。
- ベトナム人技能実習生は、良質な技能実習を終了し、5月25日に帰国することになった。後任として、ネパール人2名の特定技能生の採用を8月に予定している。
- 「地域密着型」の名にふさわしい施設となれるよう、面会制限の緩和、外出、地域のボランティアの受け入れ等を介護会議で話し合い、対応を進めた。今後お客様の家族や地域の協力を得て、交流をより強化していきたい。「ふるまい」とのグループ内交流も回り外部への発信も強化し行く。9月に実施したふるまいとの合同の秋祭りは、予想以上の来客があり、来年度も開催の予定。
- 面会対応ができるようになり、週末平日問わず実施できた。
- 外出援助も増えてきて、近隣の商業施設、公共施設などに一緒に出掛けている。利用者からも非常に好評を得た。
- インターネットによる研修システムを活用し、年間計画書のもと、1回/月の介護会議に於いて施設内研修を実施した。また、感染症制限緩和を機に、ふるまいとの合同リーダー研修を1回/月実施。ほかにも外部へ講師を依頼しての研修も取り入れた。

② 通所介護：デイサービス昨年度の平均稼働率は67.1%であった。しかし、今年度に入り、新規顧客獲得に向け、居宅介護支援事業者、地域包括支援センターとの連携を深め、稼働率UPに努めた今期の前半は効果が出たが、後半に低下がみられ、年間の稼働率は77.4%くらいの見込み。

- 自宅での日常生活との連携を強化した介護計画のもとに、一体的なリハビリテーションと科学的介護に取り組んだ。
- 「そいがあ亭だより」を毎月発行した。
- 外出援助等実施した。公共施設などを訪ね地域とのつながりを持てた。
- 信頼できる職員関係を築き、発言のしやすい職場環境づくりを行った。

③ 地域包括支援センター：コロナ禍が明け、訪問や来所の相談が制限なくできるようになり、相談件数が伸びている。

- まちなか西コミュニティと立ち上げた、「チームオレンジ」で、月1回の「集いの場」の開設や、地域の認知症の予防啓もう活動を広げた。

○今期は政府のコロナ感染対策を見ながら計画の実施に努めた。